

しののめ

題字：19期卒業生 加藤 愛

松江東高等学校東雲会事務局

松江東高等学校卒業生会報

第8号

2007年3月1日付発行

「しののめ」発刊に寄せて



「東雲会」会長

津森 仁

年賀状のやりとりもそうだが、「東雲会報の原稿よろしく」との連絡を東雲会事務局から受けると、もう一年が過ぎたのかと思う。

今年、一期生は、四十歳を迎える。社会では、特に高齢化の進む島根県にあっては、まだまだ若造である。高校時代には四十歳の自分がどうなっているか想像したこともなかったが、率直に感想を述べてみると、見た目はかなり変化したもの、中身はというと、多少なりとも経験は積んだにもかかわらず、それほど成長したような気がしない。

ただ、社会状況に関しては本当に大きく変わった。我々は、高度経済成長期に育ち、物心ついた時には一億総中流時代と言われ、仲間の多くは右肩上がりの成長が続くと思われた（使えないとの悪評高い）バブル入社組である。まあ、二十年も経てば社会状況に変化があつて当然だが、あまり明るい感じではない。

晩婚・未婚・少子化、離婚率や離職率上昇、ニート・ワーキングプアの出現・増加

や、都会での公立離れによる中学受験者の増加、人口集中による地価の上昇、景気回復による大幅な求人増などの現象が報道等で取り上げられている。「人それぞれ、人生いろいろ」と小泉首相の言葉にあったが、人生の選択肢が多様化し、個人の自由度が増した一方、世間で言われているとおり、はつきりと「格差」が感じられるようになった。

もちろん、一億総中流時代であっても、お金持ちと庶民の「差」は存在したが、昨今、もっともやっかいだと思うのは、所得の「差」のみならず、住む場所によって生活環境に「差」が生じていることだ。

自分の現在の担当業務は、都会地から島根へのUターン・Iターン者を増やすことだが、島根での生活を希望される方と話しているとき、島根と都会の差を感じずにはおられない。

「雇用」「医療」「教育」「住まい」「公共交通」「娯楽」「買い物」等、日常生活を送る環境にあまりに差があることに、島根での定住に難色を示す方も少なくない。いくら自然

が豊かでも、満員電車からの通勤から解放されたとしても、日常生活で不便や我慢を強いられることは受け入れ難いとする方は多い。

また、都会では、公立離れによる中学受験者が過去最高であることや、田舎を敬遠した医師や看護師が集中している状況を見るに、教育や医療など、日本全国どこに生まれどこに住もうと、それなりの水準でサービス提供がなされていたはずのものが、いつの間にかそうでなくなっており、その差は年々ひどくなっている。景気回復もほぼ都会地のみであり、東京を中心とした雇用増により、若年者の県外流出が深刻な状態となっている。

資本主義社会である以上、最も高い価値を生み出す地域に集中投資するのは当然であり、経済原則によらず行政投資を行ってきた結果が夕張市の破綻である。島根も他人事ではない。この反省による国政であれば、今後格差は拡大していくのみである。

所得は低くとも、贅沢をせず、落ち着いた静かに暮らせれば良い、健康的な生活により病院は必要ない、子どもは自然の中で遊びたい、地域のことは地域で、自分のことは自分で行う、という考えであれば、今のままの島根は本当に良いところだと思ふ。

ちよつと極端とは思ふが、今後どれだけ欲を捨て、経済原則と異なる価値観を持てるかが、島根でストレスなく暮らすための条件となりそうである。

学校環境の変化と東高校



校長 山田 忠 男

東雲会員の皆様、お元気で各方面で活躍のことと思います。常日頃、本校教育の振興に陰に陽にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。本年度も先日、センター試験を現役生は二五四名の追い込みに励んでいるところです。すでに、二月十四日現在、国公立三六名、私立七六名、短期大学二〇名、看護学校五名、就職・専門学校二二名の合格をいただいています。そして、まもなく二六八名の卒業生が皆様方の会に新入会員として加わらせていただくこととなります。人生の先達として、良い方向に導いていただきますようよろしく願います。

皆様もご承知のように、今いろいろな場面で教育のあり方の見直しが行われてきています。まず、大きくは「ゆとり教育」の見直し、そして「学力低下」の問題が問われています。また、特に島根県においては少子高齢化の問題も深刻なものがあります。この流れから、島根県立高校全体の通学区域の見直しも検討されてきました。昨年七月、二〇名からなる検討委員会は県教委に対し、答申を提出いたしました。そして、その答申をもとに、今の中学二年生から実施される新しい通学区域を県議会を通して決定されます。これに基づいて、平成二十年度の島根県公立高校入試は実施されます。基本的には、従来と大きくは変わりませんが、東高・北高・南高の今までの校区から若干それぞれ異なる校区の高校の普通科が受験可能になります。しかし、その場合以上の三校は一校のみ受験でき、第二志望校を選ぶことはできないという条件も含まれています。そして、北高・南高の理数科の校区は廃止になります。以上の改正により、校内でも、今一度、本校の開校当時から教育方針の柱である『師弟同行』の考えに立ち、態勢について全教職員・PTA一体となって再検討しているところです。そ

して、一部平成十九年度より、修正する準備を始めたところです。昨年十月、未履修問題においては、大変ご心配をおかけし申し訳ありませんでした。深くお詫び申し上げます。文科省が、卒業生については不問とすることを早期に発表いたしました。現役生についても全て先日補講を終了することができました。

さて、懸案であった本校のホームページの更新も昨年十二月に完成いたしました。アドレスは、<http://www.natsuehigashi.ed.jp/>です。十二月十六日(土)には、東京東雲会に清井先生と行かせてもらい、いろいろ苦勞話から、素晴らしい活躍ぶり等を聞かせてもらい、つい二次会まで付き合わせていただきました。そして、その時の概要をHPに載せることを約束し、先日載せました。また、今後このような会合及び報告はどんどん載せて東雲会の活躍の場としてと思っております。ホットな情報があれば学校までお知らせください。また、支部でHPを立ち上げリンクするのも今後の課題かと思っております。おすすりめ品として、学校紹介↓校歌のコナーがあります。これは無伴奏、伴奏ありとありますが本校の合唱部の斉唱によるものです。是非、聞いて日頃の疲れを落とし明日の勇気を奮い立たせてください。最後に、もう一つ嬉しい話題に、大

学を卒業してから古本興業で活躍していた本校十四期卒業の山内健司君(25)が『鎌鼬』(かまいたち)という芸名で濱家隆一氏(23)と、若手芸人の登竜門「第二十八回ABCお笑い新人グランプリ」に挑戦し最優秀新人賞を獲得されました。以上報告し、今後のさらなる活躍を祈念したいと思います。

今、本校の「校本」を検討しています。何か、これぞという樹木がありましたら、お知らせください。四月に新しく入学して来る一年生は二十五期生です。将に四分の一世紀を本校は迎えます。卒業生・東雲会の会員皆様の益々の活躍を祈念し、現状報告とさせていただきます。



「大会テーマ」

悠久の地より吹く新しい風

く島根ニロロセく

期間 平成十九年七月二十九日～八月二日
部門 総合開会式をはじめ二四部門
会場 松江市をはじめ県内八市町
規模 全国から約一〇万人が集う



島根大会のポスター原画

文化部の意気込み

書道部

私たち書道部は、毎週金曜日放課後に辻原先生のご指導の下、活動をしています。ほかの部活動と掛け持ちしている人も少なくありませんが、活動時間に集まって筆を執る時には書道に集中して紙に向かっていきます。一方で合間合間には楽しく会話も交わしてリラックスするときと集中するときと、メリハリのついた時間を過ごすことができ、週に一度の活動時間があつという間に過ぎていくようです。

毎年、五月末から三瓶青少年交流の家で行われる書道コンクールと講習会では島根県下の高校生が集まるので、

互いの書を見せ合って参考にしたり、共同作品を作って親睦を深めたりして、作品制作の刺激としてきました。その成果を来年度には島根県で行われる高校総文祭で発表することとなりま

す。書道部門は平成十九年七月二十九日から八月二日まで武道館にて全国の作品を展示するとともに、県内企画展として私たち島根県の書道部員がこれまで制作してきた作品を発表します。県内企画展として、今、私たちが取り組んでいるのが大会テーマを大書することと島根県ゆかりの文人が残した文章を書くことです。大会テーマは「悠久の地より吹く新しい風」で、長い歴史と新たな活力を持つ島根県の性格を

表しています。この大会テーマの一文一字一文字を県下の様々な高校に割り当てて、幾つかのバージョンを制作するのですが、テーマに合うようにどのような書体で、どのようなバランスで書こうかと考えつつ、複数の人数で書くためにそれぞれが書を整えていく過程はみんなが心を一つに合わせていくような気持ちが出て、とても楽しいです。これからも、まだまだ作品展示に向けて練習を重ねていきますが、全国の出品作品に負けないような迫力のある作品を書いていきたいと思えます。

合唱部

私たちは現在、男子部員二名、女子部員十三名の計十五名で日々活動しています。決して多くはない人数ですが、一人ひとりの豊かな個性と持ち味を生かして楽しく充実した毎日を送っています。今私たちは主に女声合唱として活動しています。そのため、コンクールや発表会などでは女声合唱で参加しています。

合唱部は昨年の三月に、全国総文祭島根大会のイメージソング「明日へ」を全国で初めて演奏し、発表しました。松江駅やくにびきメッセなどで演奏したので、島根の多くの人にこの曲

を知ってもらおうことができたと思いま
す。また、十月にはこのイメージソ
ングのCD録音や、発表会にも参加しま
した。松江北高校、開星高校合唱部の
皆さんと一緒に、心を合わせて歌うこ
とができました。同じ島根県にいな
がら、普段はあまり交流もなくそれぞ
れお互いの活動をしていましたが、こ
のような場で同じ合唱をしている仲間
として同じステージに立ち、同じ曲を歌
えたことに大きな喜びを感じました。



この総文祭を通して、これまであまり
関わり合えなかった人たちと一緒に活
動できることをとても楽しみにしてい
ます。

このイメージソング「明日へ」は島
根の良いところや、総文祭を作り上げ
る私たち高校生の意気込みが書かれて
いて、歌っていてとても明るくなりま
す。また、明るくさわやかなメロデー
がつけられているので、聞いている人
たちにもそれがより一層伝わると思
います。これからの東高合唱部は、この
曲を全国の一人でも多くの人に聞いて
もらえるようないろいろな場で演奏し、
島根って良いところだな、行ってみた
いなと思ってもらえるようにしたいで
す。

この総文祭島根大会を成功させるた
め、部員一同できる限りのことをした
いと思います。

美術部

こんにちは、美術部部长の野津里
美です。現在、東高美術部は二年生
八名、一年生九名の計十七名で活動し
ています。活動はほぼ毎日あり、展覧
会前になると制作途中の作品が美術室
中に立ち並び、油絵の道具のなんとも
言えないにおいが立ちこめた、これぞ
美術部という雰囲気になります。現



全国高総文祭京都大会

在は一年生は基礎的なデッサンを中心
に、二年生は最後の大作(自由制作)
のアイデア作りという比較的ゆるやか
な活動をしています。本校の美術部は
全国大会に過去六回出場しており、県
内でも力のある部としての評価を受け
てきました。そして、今年度と来年度
と連続して作品が全国大会に選ばれ、
特に来年度は二点(二名)も選ばれ
て、他校の先生方からも作品の水準が
高いと密かにお褒めの言葉をいただ
いております。ところで、その来年度
の全国大会(第三十一回全国高等学校
合文化祭島根大会)美術・工芸部門で
は、本校が担当校で、山田校長先生が
会長、顧問の杉谷先生が委員長、そ
して私が生徒実行委員の委員長として、

今年七月二十九日からの開催に向けて
昨年より他校の生徒・先生方と会議を
重ねているところです。大会には県外
から参加生徒約四百人が集まり、その
作品の鑑賞から生徒交流会とお互いに
良い刺激を受け合う文化交流の場にな
ります。県内の美術部員とともに、県
外から来られた方々に『来て良かった、
もう一回島根に訪れたい』と思われる
よう、派手ではないけど心温まるおも
てなしをと考えているところです。先
輩の皆様方も、下記の期間・会場で
開催されますので、ぜひ私たち後輩の
活躍をご覧ください。〔展覧会〕七月
二十九日(日)～八月二日(木)島根県立美
術館〔開会式〕七月二十九日(日)ホテ
ル一畑〔講演会〕七月二十九日(日)ホ
テル一畑〔交流会〕七月三十日(月)ホ
テル一畑

新聞部

平成十九年度に島根県で開催される
全国総合文化祭の新聞部門の活動は、
この松江を主会場として行われます。
メイン会場は松江駅前のテルサホール
です。ここでは、全国の高校の新聞部
によって作成された新聞が展示されま
す。また、県外の新聞部員は、それぞ
れに即席のチームを作り、松江市内や
松江周辺の観光スポットをめぐって新

聞を作成します。日頃の取材技術や、新聞の編集技術の集大成となる活動であるとともに、広くこの島根県を全国にアピールする機会となります。

先ほど、「県外の…」と書きましたが、私たち、県内の新聞部員や松江東高校の新聞部員は、総合文化祭の期間中、それぞれのイベント会場をめぐり、速報新聞を作成することになります。まだまだ、具体的な仕事の内容は決まっていますが、取材・編集・印刷・配布と、全てを自分たちで行っていかなければなりません。しっかりとした技術をつけたいものです。また、新聞部では部員を大募集しています。文章を書くことが好きな人、取材などに興味がある人、ぜひ全国総合文化祭を取材して、思い出に残る記事を作りましょう。

J R C 部

こんにちは、J R C部です。私たちは、全国総文祭に手話コーラスとして出演します。

練習ではいろいろな学校の人たちや講師の先生方たちと一緒に手話をしました。始めは、みんな手話の経験がなく本番までできるようになるか、とても心配でした。だけど、十一月に行われた県民会館でのプレ大会では、素

晴らしいラストを飾ることができました。プレ大会で成功したように、今年の夏の総文祭の本番でも、大大大成功させたいと思って意気込んでいます。はい！

J R C部の活動は、あまり知られていないようですが、街頭募金やバザーなど様々な世の中のニーズ（必要）に応えた活動を行っています。これからも、人の役に立てたらいいなと思います。

今、J R C部は二年生四人、一年生三人の計七人と顧問の周藤先生とで活動しています。部員はみんな、優しく可愛く、とても楽しく良い雰囲気です。この雰囲気を大切にしてこれからがんばっていききたいです。

そして、まずは、総文祭を一番の目標とし、心を一つに輝きたいと思えます。

先輩方もぜひ私たちの活動を見にいらしてください。

FORRからWITHへ♡

弦楽部

こんにちは、弦楽部部長の井上葵です。弦楽部は平成十二年度に初めて同好会として活動を開始しました。同好会としてスタートした頃は六人ほど

だった部員も今では二十人を超え、部活動としてさまざまに活動できるようになりました。

私たち弦楽部の主な活動は、学校内では式典や学園祭での演奏、中庭コンサート、学校外では昨年度から始めた弦楽部定期演奏会、他校の弦楽部との合同コンサートなどです。曲目は基本的に自分たちがやりたい曲を選んでいきます。また、休日の練習計画なども自主的に組んでいます。

弦楽部は弾くのが難しいというイメージを一般的に持たれるようですが、高校から始めた初心者でも、音感がある程度あれば、何ヶ月かしたらコツを掴み、何とか曲を弾くことができるようになります。とは言ってもまだまだ経験の浅い私たちが、今年島根県で開催される全国高等学校総合文化祭島根県大会の器楽・管弦楽部門で主催県という立場で演奏を披露しなければなりません。そのために、「しまねシンフォネット高校オーケストラ」として数年前からすでに活動を開始しています。このオーケストラは、松江東、松江北、安来、出雲、益田、益田翔陽、開星高校の七つの学校から結成されていて、今年の総合文化祭のための合同練習をもう始めています。

総合文化祭で演奏する曲や、大会のイメージソングはすでに決まっています。イメージソングに至っては、一年



前から練習を始め、本番での演奏も何回か経験しました。また、その他、総合文化祭で上演される構成劇の伴奏も、オーケストラピットの中で披露することになっており、今後ますます忙しくなると思います。しかし、全国総合文化祭が島根で行われるというのは、めったにない機会であり、全国か

科学部

らやってきたたくさん的高校生と音楽を通じて交流できるので、楽しみながら総合文化祭を盛り上げていきたいと思えます。島根県のことをもっと広く全国の高校生の皆さんに知ってもらえたら、と思っています。

こんにちは!!あまり部員数は多くありませんが、濃いメンバーの『科学部』です。謎が謎を呼ぶ不可侵な部ではありますが、平成十九年度の全国総合文化祭in島根では、大田市を本拠地とし、大田高校を中心として二年に一度の『自然科学部門』を大々的に行います。そして、東高『科学部』からも部長の松本(著者ですが)が生徒実行委員として参加してたりもします。『自然科学部門』の生徒実行委員が六人と少なく、尚且つ実行委員会の回数が少ないこともあり、中々計画を立てたりするのが大変ですが、濃い実行委員メンバーが集結したので何とかやり遂げたいです。大田高校から生徒実行委員長を含む二年生三人と出雲高校からパワフル女子二人、松江南高校から物静かな男の子一人、そして松江東高校から私が参加し実行委員会を行っています。本番では島根県内の科学系の部の方々に手伝っていたたく訳ですが…、

未だに内容が決まっていけないという不味い状況にあります(汗)。しかしながらここで諦めるような細かい神経を持ち合わせていないメンバーですので、反動でもっと凄いことをやっちゃいそうです!!(ワオオ!!)

場所は変わって東高科学部では、総文祭の時に『生徒交流会』なるものを行うのですが、その時に使うクイズを作ったり、BGMを選んだりしています。この『自然科学部門』は行われる回数が他の半分なので、結構沢山の高校生が参加するようです。なので、クイズの量も半端じゃなく、クイズにするジャンルも決められているので、科学部員皆苦労しています。頭を悩ませる日々…。一向に出来る上がる気配がありません(爆)。でも、そこは科学部!!各々の力で製作中です!!

総文祭は全国から高校生が集まって交流などができる場です。それをフル活用して今後の科学部の活動に活かしたいと思います!

★総文祭での

科学部の活動に注目!!★



島根大会
マスコットキャラクター
「かぐらん」



美術・工芸部門 生徒実行委員

卒業生近況報告

一期

なつかしく思い出す東高

枝村 文字 (旧姓田中)

私も原稿依頼の手紙をいただき、正直驚きました。あらかじめ打診があったり、事務局の方のつてで依頼されるものだと思っていたものですから。しかも猶予は十日ほど。次はあなたの元へ届くかもしれませんよ(笑)。

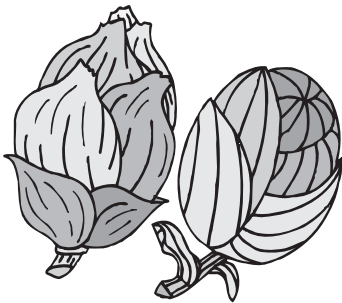
さて、東高を卒業して二十一年。本当に早いものです。結婚してすぐここ茨城の地に来て、十四年になります。家族は夫と子ども三人、上の子はこの春で中学生です。家事に子育て、平凡ではありますが幸せを感じつつ、たまに子育てに悩みながらも、日々を送っています。

父の転勤で私が松江に越してきたのは中学二年の時。そして高校時代を過ごし、三年生の春に父が病気で亡くなりました。私を心配してくれた東高の友人たちは葬儀にも出席してくれました。みんなが心配してくれたこと、嬉しかったなど今でも思い出します。

一期生なら絶対忘れはしない、と言えるのは、初めて三学年が揃った東高三回目の体育祭です。途中降った雨で

中断した後、またみんなでグラウンドへ戻り、びしょびしょになって、心は一つになりましたよね。ザーッと降った雨が止んで日が差してきた時は、空も地面もみんなも輝いていた。あの時は本当に幸せだと実感しました。

東高卒業後は短大入学のため松江を離れ、そして二年後に実家も転居し、松江に帰ることはすつかりなくなりました。私にとつての松江は、多感な時期を過ごした、思い出すと胸がきゅつとなる地です。楽しいことも、悲しいことも、また恥ずかしいことも色々ありました。遠くのほうできらきら輝いているようなそんな土地です。そしてその中心舞台が東高でした。こ



の東高卒業生会報は、その当時を思い出させてくれます。東雲会を支えてくださっているスタッフの方々には感謝しています。この会がいつまでも続きますように……。

P・S 津森君、会長くろうさま。これからもがんばってください！

二期

バレー部の仲間

江角 耕治

卒業して二十年以上が過ぎた今、改めて「東高の思い出」とは何かを自分に問いただしてみると、「たくさんありすぎて一度には思い出せない」の二十二年経過して思い出せない」の二つとも正直な答えである。ただその中で、今でも交流し続ける仲間がいるバレー部時代の仲間との思い出が一生忘れることのない「東高の思い出」なのかもしれない。

一期生であった為、もちろん先輩が存在しない三年間だった。途中で部員の入替があったが、三年間ずっと一緒にだったメンバーとの横のつながりは、計りしれなく強固だと思ふ。

補欠であったこともあり、常に部活動では仲間を良きライバルと意識していたと思う。その気持ちは部活のみならず、高校時代の全ての場面において

も、浪人時代、大学四年間、就職してからも、ずっと持ち続け意識しあってきた。口論もしたし、叱咤されたもしたが、今でも気になる存在。そんな仲間がいることが、東高の思い出だと思ふ。

地元企業に就職したものの、県外に転勤し十年が経つ。たまに帰って飲みに行くのも部活の仲間である。メンバーも、話の内容も二十年前と特に変わらない。ボケたのか同じ話題の繰り返しである(最近健康の話題が五割を占めつつあるが)。なぜか居心地の良い時間がある。

今年の正月には、後輩が発起人となり、バレー部OB会が開催された。連絡が行き届かず、二〇名程度での会であったが、これから毎年、少しずつでも人数が増えて開催できれば、縦のつながりも太くなっていくと思うと、楽しみである。

東高バレー部OBの皆さん、毎年正月には、松江で会いましょう。

三期

音が苦から音楽へ

江指あけみ

東高の前を通ると楽器の音が……。音楽に浸っていた楽しかった三年間が懐かしく思い出されます。

大学を卒業してから十数年、ずっと続けていた声楽から離れていましたが、二年前から再びレッスンを開始しました。以前はどんな曲でも楽譜を見れば歌うことができたはずなのに、久々に歌ってみると楽譜を読むのに時間がかかる、思ったように声が出ないと大きなショックを受けました。十年のブランクはとてとても大きく、これを取り戻すにはかなりの努力が必要だなど感じています。以前は、良い成績をとって人に認められたという思いが強く、好きで始めた声楽にもかかわらず時々歌うことが辛くなることもありました。しかし、一度歌うことから離れたことで今は楽な気持ちで歌と触れ合うことができるようになったと感じています。



昨年子どもが産まれ、その子もまもなく一歳になります。音楽にも興味が出てきたようで、ピアノを触って音を出してみたり、音楽を聴いて体を動かすなど、楽しんでいっている様子です。一人で楽しんでいた音楽をこれからは子どもと一緒に楽しんでいきたいなと思っています。

三期

東高と私

大網 雅恵

高校時代を振り返ると、帰宅部の悲しさかな、これといった特別な思い出がない。ひたすら家と学校を往復した生活だった気がする。だから覚えていることと言えば、授業中の断片と放課後やお弁当の時間の友人とのおしゃべりばかり。

一年生の頃に天気が良いとテラスに出て中庭を見ながらお弁当を食べたこと。

数学の時間、K先生の質問に答えられず黙っていたら「今井(旧姓)はWだな。わしはWWだ。(Wはに、Wはしブイの意だそうだ。)」と笑われたこと。

いつも緊張感漂うF先生の古典の時間、活用を尋ねられ、緊張のあまり「下二段活用でございませう。」と友人が答

えたこと。

当時、運動部の彼と付き合っていた友人に付き合っただけで放課後に校舎の影から練習風景をながめたこともあったわけ。

楽しいこともあったけど、勉強面でもいつもクラスメイトに追いつかぬという思いが強く、きつかった。卒業してから他高校出身者たちの楽しい高校生活の思い出を聞く度、羨ましく思ったものだ。そして同窓会に出ることもなく、東高の記憶はかなり薄れていた。

そんな私だが、先日テレビで偶然にNHK杯の男子バスケの試合を目にした。いつのまにか、すっかり東高を応援していた。

続いて「しのめ」の原稿依頼が届き久しぶりに聞いたアルバムをみたら、校歌も応援歌も自然にメロディーが出てきた。

どんなに記憶が薄れていると思っても、私にとって東高は母校であり、あの三年間は確かに青春の一時であったのだと改めて感じた。

あと十年もしないうちに、息子たちは高校生活を迎える。彼らはどんな高校生活を送るのだろうか。思いを巡らすと楽しくなってきた。

七期

現在の私

江角 亮太

私は現在、浜田市弥栄町で郵便局長として働いています。高校生の頃には、自分が郵便局長になることなど考えもしなかったのですが、人生というのは本当に分からないものです。

弥栄町は山間部にあります。通常の場合でも、配達というのは一瞬の油断がケガに直結する仕事ですが、冬には豪雪にみまわれることも度々で、そういう時は文字どおり命がけになります。お客様の励ましで支えられているからこそできる仕事だと思っています。

皆様もご存知のとおり、日本郵政公社は平成十九年十月には民営化されまします。その準備段階でもありますし、勤務地が松江から遠く離れていることもありまします。現在は昔を懐かしむ余裕はほとんどありません。変化の激しい時代に対応していけるように、未来を見すえて自己研鑽していこうと思っています。

同窓会していますか？

大西 裕美

皆さんは同窓会をしていますか？
私は在校時に女子バレー部に所属していたので、同期の仲間と年二回（お盆とお正月）食事を開くことにしています。ですが今年のお正月はお互いに都合が合わず中止の予定でした。ところが昨年十二月中旬頃大きな計画が持ち上がりました。なんと東高バレー部の男女合同で、一期生から九期生までの同窓会をしようというのです。

同窓会といえば同学年の人たちが集まるという固定概念を私は持っていました。まさに同じ窓辺、場所です。過ごした人たちが集まる会となりました。ですが幹事の方に伺ったところ企画が急であったこと、さらに全員にまで連絡が行き渡らなかつたこともあり、そう簡単にはいかず苦勞をされたようです。結局初回は二十人を超える人たちが集まってとても盛り上がりました。学生時代に交流がなかつた世代間でも話をしていく中で意外なつながりがあったりして、短時間ではありませんが同じ高校に通い、同じ部活動をしていただけでもこんなに結束できるのかと思えるほどでした。次回は夏にお互いの家族も呼んでバーベキューをしながらビーチバレー大会をしようという

計画も持ち上がりました。ぜひこれが計画だけで終わらずに実行して、また新たな伝統となっていけたらと思います。

後日幹事の方から「松江東高校バレー部同窓会名簿」が送られてきました。その名簿は初回の同窓会に参加した人たちだけしか載ってなくとも薄かったのですが、幹事の方は「この名簿が後々分厚くなるようにしたい」とおっしゃっていました。今回不参加だった人たちもどんどん参加していただいて、近い将来には世代を越えた同窓会が開催されることを期待しています。

みなさんも久しく同期生や先輩・後輩に会っていないなあと思ったら連絡を取り合ってみませんか？

十期

私とバドミントン

江中 裕紀

例年になく暖冬の日々が続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？ 私は現在学校現場で働いており、毎日中学生を相手に奮闘しながらも充実した日々を送っています。さて、このたび突然「しののめ」の原稿依頼があり、何を書こうか悩みましたが、現

在私が夢中になっているバドミントンについて書いてみようと思います。

私の東高時代は、正直なところ勉強よりも部活に明け暮れたと言っても過言ではないでしょう。私は当時バドミントン部に所属しており、日々練習に取り組んでいました。専属のコーチなどもいなかったもので、先輩から後輩へ受け継がれる形で多くのことを学びました。技術的なことでは、東高は必ずしも強いとは言いがたいチームでしたし、華々しい実績などもあまりありませんでした。それでも毎日飽きもせず羽根を追いかけたことが、今となってはとても懐かしい思い出です。

大学でもバドミントンは多少やっていたのですが、社会人になってからはすっかり疎遠になっていました。しかし、縁というのは不思議なもので、高校当時ダブルスのペアだった友人に誘われて、五年前からバドミントンの社会人チームに所属し、再び燃えて羽根を追っている今日この頃です。チームには、同級生や後輩を始め、いろいろなつながりで人が集まり、まるで高校の部活動のようでも楽しいです。仕事の合間を縫って大会に参加したり、メンバーと旅行に行ったりと、社会人になってもこんな青春がやってくるなんて思ってもみませんでした。今では、このチーム「びぎなーズ」は私

にとっかけてかえのない大きな存在となつていきます。

十三期

近況報告と学生の皆さんへ

遠藤 淳平

松江東高校を卒業して九年が経ち、現在は群馬県で自動車メーカーの協力企業で生産技術に就いています。

学生の皆さんは生産技術と聞いてどんなイメージを持たれるでしょうか？ 私の意見は「何でも屋」です。悪いイメージではなくて非常に重要な部門だと思つていきます。

私の所属する部署は、部品を製造する設備を計画し、立ち上げることを主とした部署ですが、これ以外にも生産現場からの要望に応えたり、より良いモノ作りの方法を考えるなど幅広い仕事を行っています。大きなプレッシャーに負けそうになることも多いですが自分の立ち上げた設備で作られた部品が新型車として市場に出て、町で見かけると自信がきます。また、一昨年はアメリカへの出張もあり、いい勉強ができました。

学生の頃はロボット産業の分野で働きたいと考えていましたが、今はロボットを扱う側で仕事をしています。しかし、仕事に対して責任と自信を

持ってやっています。仕事から離れれば週末はバイクで出掛けたりもしています。

学生の皆さんはこれから先のことになりませんが、自分が本当に望む人生のあり方を良く考えて高校生活を送っていただきたいと思います。

十三期

「満」

大田 齊治

東高を卒業して十年が経つ今年、こうして在校生のみなさんにあてて文章を書く機会を得られたことをとても嬉しく思います。年末に三年半ぶりに帰省した際、「何らかの形で自分の卒業した東高の人達に、これまでの自分のことを伝えることができたらな」と久しぶりの「本場の寿司」に舌鼓を打ちながら、両親とも話していたからです。東高を卒業する頃、ボクには二つの目標がありました。

一つ目は、長期留学したいということ。小さい頃から英語が好きだったことを始め、中学三年生の夏にアメリカからの学生のホストファミリーを経験したことをきっかけに異文化の中で生活してみたいと強く思うようになりました。

もう一つは、パソコンを使つての

グラフィックデザインを覚えたいということ。高校三年の冬に、ボクがイラストを描くのが好きなことを知っていた後輩に頼まれて、所属していたバスケットボール部のトレーナーを作ったことがあります。自分の手書きのデザインがパソコンでキレイに修正、印刷される工程を見て感動し、自分もできるようにになりたいと思いました。

さて、十年後の今のボクはこんな生活を送っています。「この歳でやっとできたの？」と驚かれそうですが、国立大学在学中と卒業後一年の五年間アルバイトで貯めた資金で達成した三年半の留学生活（グラフィックデザインを勉強するためにこちらで大学にも行きました）を終えて、この歳で晴れて社会人になりました。

勤め先は、レンガ造りの我が家から三十分、ダウンタウン・シアトルの外れにあります。毎朝バスの中で、シアトル名物の珈琲を味わいながら、乗り合わせた人達と「調子はどう？」なんて挨拶を笑顔で交わし、軽い世間話をする通勤時間は、気持ちを爽やかにしてくれる格別なひと時です。公園に面した整理の行き届いたオフィスに着ると、アメリカ人、イギリス人、ブラジル人：と国際色豊かな同僚達に迎えられ、そこでグラフィックデザイナーとしての一日が始まります。

東高生のみなさんも、これから先

の自分の将来に向けて、いろんな目標があると思います。卒業してから十年経ったボクがみなさんに言えることは、「自分の目標を諦めようと想像した時、身震いするほど嫌なら諦めちゃダメ！」ということです。ボク自身も自分の目標を達成するまで、かなりの努力と我慢、そして精神的な強さが必要で、何度も挫折しかけた。ただ、それを食い止めたのは、夢を諦めた自分を想像すると、虫酸が走ったからです。それと同時に、自分の目標が自分にとつていかに大きい存在か確認することでもありました。長いようで短い人生、少々時間がかかってもいいから、自分がしたいことに向かって突っ走ってみましょう。自分を満たせるのは、結局自分しかいませんから。

平成 17 年度 (21 期生) 大学等進路状況

卒業者	260
進学者	215
国公立大	109
私立大	57
短大	20
専門各種一般	29
その他	0
就職者	3
再受験	42
〈国公立大合格者実数〉	
内訳：現役	130
過年度生	31



平成18年度(第44回)県高校総体結果一覧(および文化部)

体 育 系	文 化 系
松江東高校 ()は昨年度 男子総合 得点 71点(24点) 順位 5位(19位) 女子総合 得点 73点(46点) 順位 5位(8位) 男女総合 得点 144点(70点) 順位 5位(11位)	
【各部結果】	【合唱部】
【陸上競技】	NHK全国学校音楽コンクール県大会 銀賞 全日本合唱コンクール県大会 高校Aの部 金賞 全日本合唱コンクール中国大会 高校Aの部 金賞 第8回定期演奏会(プラパホール・7月8日(土)) 第18回プラパ室内合唱コンクール女声の部 混声の部
女子走高跳 決勝進出 澤 順子 男子3000M S C 決勝進出 門脇 鷹也	【吹奏楽部】
【剣道】	第13回スプリングコンサート(定期演奏会)開催 (5月5日(金)・プラパホール) 島根県東部地区吹奏楽祭 参加 (6月4日(日)・島根県民会館) 高文連東部地区音楽発表会 参加 (7月12日(水)・プラパホール) 全日本吹奏楽コンクール県大会 出場(7月30日(日)) 高校Aの部 銀賞 全国高等学校総合文化祭 器楽・管弦楽部門 出演 (8月4日(金)・京都府会館) 第2回島根県高等学校文化フェスティバル 出演 (11月4日(土)) 全日本アンサンブルコンテスト県大会 出場 (12月17日(日)・大田市民会館) 高校Aの部 金賞1団体 銀賞2団体 高校Bの部 金賞1団体 銀賞2団体
男 22点 女 5点 男子団体 1回戦 対浜田商 4-0で勝ち 2回戦 対松江北 4-1で勝ち 2回戦 対浜田 4-1で勝ち 準決勝 対出雲西 2-1で勝ち 決 勝 対大社 0-4で負け (第2位) 女子団体 2回戦 対大社 1-2で負け (ベスト8) 男子個人 六路 喬 ベスト16 石飛 涼介 ベスト32 女子個人 上山 千佳 ベスト16 内藤 瞳美 ベスト16	【弦楽部】
【柔道】	全国高等学校総合文化祭 参加(京都府京都市) 高文連東部地区音楽発表会 出演(プラパホール) 第11回県中・高弦楽クラブ演奏会 参加(プラパホール) 平成18年度高校生美術作品展オープニング記念演奏 会(県立美術館) 第2回弦楽部定期演奏会 開催(プラパホール) しまねシンフォネット高校オーケストラ第7回定期 演奏会 参加(島根県民会館大ホール)
男子個人 66kg級 予選リーグ敗退 豊島 隆太 73kg級 予選リーグ敗退 山崎 賢太 90kg級 予選リーグ敗退 小谷 隼人	【美術部】
【弓道】	高文連松江地区絵画コンクール (6月2日(金)・会場 美保関漁港周辺) 入選19点 第2回県高校文化フェスティバルポスター 原画コンクール 入選10点 最優秀 野津 里美 優 良 吉川千賀子・原 詩織 第39回県高校美術展 絵画の部 入選21点 デザインの部 入選10点 全国高校総合文化祭推薦作品(平面) 野津 里美・吉川千賀子
女 8点 男子団体 予選敗退(40射21中) 男子個人 2回戦敗退 女子団体 予選7位 準決勝進出(40射18中) 総合5位 (40射21中) 女子個人 3回戦進出 小森さつき(12射5中)	【演劇部】
【卓球】	「In the shape of a heart ーはーとのかたちー」 岩町 暁作 松江地区演劇発表会 優秀賞 県高文連演劇発表会 優良賞 松江地区合同公演「Girls」 岩町 暁作
女 5点 男子団体 1回戦 3対0 情報科学 2回戦 0対3 出雲北陵 男子ダブルス 4組参加 2回戦まで敗退 男子シングルス 8名参加 3回戦まで敗退 女子団体 2回戦 3対0 浜田 3回戦 1対3 平田 (ベスト8) 女子ダブルス 2組参加 野津佑那・前田絵里佳組 ベスト16 女子シングルス 5名参加 野津 佑那 ベスト32 前田絵里佳 ベスト32	【放送部】
【水泳】	第53回NHK杯全国高等学校放送コンテスト テレビドラマ部門 出場
男子400M自由形 2位 徳島 洋 男子1500M自由形 1位 徳島 洋 男子50M自由形 6位 天野 駿 男子100M平泳ぎ 5位 天野 駿 女子100M自由形 6位 門脇 久美 女子200M自由形 6位 門脇 久美	【書道部】
【バスケットボール】	高文連書道コンクール 特選 川角 綾、増本 由美、野津 萌、 岩崎 佳介、後藤 知里、野田 実希、 上野和香奈 秀作 中西明日奈、城市 夏希 佳作 山名 瑞穂 全国高等学校総合文化祭出品 川角 綾 県高校書道展 奨励賞 城市 夏希
男 26点 女 20点 男子 1位 2回戦 129-57 平田 3回戦 110-59 大東 準々決勝 78-68 松江南 準決勝 81-68 松江高専 決 勝 96-63 松江工業 ベスト5賞 内田 達夫、松原 達也 女子 2位 2回戦 109-48 三刀屋 3回戦 74-45 出雲 準決勝 78-50 松江北 決 勝 67-69 出雲北陵 ベスト5賞 秦 あかね	【科学部】
【バレーボール】	世界物理年特別企画・日本物理学会主催 Jr.セッション 研究発表会「人工オーロラについて」展示発表 県高文連自然科学部門研修会 物理領域の実験講座の企画・運営 県高文連自然科学部門研究発表会 「実験室で蜃気楼をつくる」展示発表 優秀賞
女 22点 男子 1回戦 0-2 出雲 女子 2回戦 2-1 浜田商業	【JRC部】
	ケニア生活支援協力募金 ジャワ島中部地震被災者に対する救援金募金 学園祭バザー 高総文祭総合開会式 手話コーラス 年末義援金募金
3回戦 2-0 瀬摩 4回戦 2-1 松江南 準決勝 2-0 松江北 決勝戦 0-2 開星(第2位)	
【ハンドボール】	
男子 1回戦 29-9 江津 準決勝 11-20 松江南 3位決定戦 19-24 松江工業(第4位) 女子 1回戦 3-28 松江南	
【サッカー】	
男 9点 2回戦 3-2 出雲工業 3回戦 4-0 江津 準々決勝 2-3 松江北(ベスト8)	
【テニス】	
男 8点 女 5点 男子 総合 第5位 団体戦 3位 シングルス ベスト16 林 誠・近藤 真 (中国大会出場) 女子 団体戦 3回戦敗退 シングルス ベスト32 長尾香葉子 ベスト32 福原香穂里	
【ソフトテニス】	
男子団体 1回戦 3-0 隠岐島前 2回戦 0-2 松江工業 男子個人 1回戦 福岡・金山 1-4 関・遠藤(松江西) 2回戦 遠所・田辺 4-3 河野・大石(津和野) 杉原・国野 0-4 三好・岩田(松江北) 柏原・吉岡 1-4 高橋・飯田(横田) 3回戦 遠所・田辺 4-3 小中・古藤(松江商) 4回戦 遠所・田辺 4-3 藤井・安部(松江北) ベスト32 女子団体 1回戦 松江東 2-1 出雲商業 2回戦 松江東 0-2 松江西 女子個人 青木茉莉子・荒金 恵美組 2回戦敗退 中村 友紀・荒川 裕美組 2回戦敗退 梶川 聡美・清水 朋美組 3回戦敗退 山本 有希・津田美優紀組 3回戦敗退	
【バドミントン】	
女 8点 男子学校対抗戦1回戦 0-3 松江北 女子学校対抗戦1回戦 3-1 出雲商業 準々決勝 2-3 松江北(ベスト8) 女子シングルス ベスト16 山蔭 智香・竹田夏菜子 女子ダブルス ベスト16 山蔭 智香・竹田夏菜子組 若槻みなみ・山坂友貴子組 澤野 夏美・田中 志歩組 (女子総合第5位)	
【ボート】	
男 6点 男子 シングルスカル 4位 井川 ダブルスカル 優勝(インターハイ出場権獲得) 女子 シングルスカル 優勝(インターハイ出場権獲得) クォドルブル 2位 柿田 大矢根 林 平塚 三島	
【アーチェリー】	
女子団体 1位 男子団体 2位 女子個人 1位 角谷朝和子 2位 坂本百合菜 3位 佐々木菜穂 4位 高橋 由加 男子個人 7位 福村 翔平	
【野球】	
平成18年度松江地区高等学校野球大会 1回戦 8-2 松江北 2回戦 3-1 松江南 準決勝 2-7 立正大浜南 第88回全国高等学校野球選手権島根大会 1回戦 3-4 益田	

職員の変動

◎退職

校長 梅木 祥司
 養護教諭 古川 幸
 講師 加納 尚子 理科
 事務職員 宇山 弘子

◎転出

教諭 田邊 映美 国語 松江農林
 教諭 本間 達也 地歴 松江東高等学校
 教諭 小林 三高 数学 松江東高等学校
 教諭 古澤 睦人 数学 出雲工業
 教諭 大門 透 理科 出雲養護
 教諭 坂本 美樹 理科 隠岐島前
 教諭 田中 久士 芸術 川本
 教諭 村上 浩二 英語 三刀屋
 教諭 舟津 亮二 英語 出雲
 講師 高松 芳弘 数学 如水館(広島)
 講師 二岡恵美子 体育 松江北
 講師 福岡みちる 体育 出雲農林
 主任 平井 久子 心と体の相談センター
 ◎転入
 校長 山田 忠男 数学 松江農林
 教諭 浅田 一裕 数学 大社佐田分校
 教諭 早見富士夫 数学 大東
 教諭 山根真樹夫 理科 矢上
 教諭 有藤 克巳 理科 川本
 教諭 富塚 裕美 理科 大東
 教諭 河村 匡敏 英語 福山誠之館
 教諭 山根 幸久 英語 江津
 養護教諭 角 真左子 島大附属中学

講師 吉田 昇 地歴 松江南
 講師 竹本 佑子 数学 松江北
 主幹 丸 宏治 建築住宅課
 事務職員 徳田 小通
 J・S・T職員 早水つづみ

事務局だより

☆同窓会開催時の補助金

平成七年度より、同窓会開催時の補助金が次のような基準で支出されます。

- ・クラス毎の場合……一万円
- ・各期毎の場合……十万円

条件①半数以上の参加があること

②同窓会報に報告書を書くこと

同窓会を開催されるときは、早めに事務局までご請求下さい。

☆表紙の題字

「しのめ」の題字は、本校十九期卒業生の加藤 愛さんのものです。

☆東雲会関東支部会報告

平成十八年十二月十六日に東雲会関東支部会が開催され、本校から山田校長先生、清井先生そして東雲会会長の津森仁さんが出席されました。関東支部長の上田恵子さん、一期卒の小村(旧姓中野)由香さんにお世話をいただいて、盛大な会となりました。会の詳しい内容は松江東高校ホームページでも紹介しています。

お二人をはじめ、出席していただいた東雲会会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

来年ももちろん開催する予定です。で、関東在住の皆様は是非、ご出席ください。

☆お礼とお詫び

お忙しい中、会報の原稿を送っていただいた方には、はなはだ失礼ではございますが、書中にてお礼申し上げます。

来年度は苗字で「オ」「カ」から始まる方に執筆依頼をさせて頂いていただきます。何卒ご了承くださいませ。

☆松江東高校東雲会役員一覧

会長	津森 仁 (二期)
副会長	佐目 元昭 (二期)
〃	杉原百合江 (二期)
〃	後藤康太郎 (二期)
〃	安田 浩昭 (三期)
〃	古藤 啓一 (五期)
〃	山田 忠男 (校長)
監事	古川貴美子 (二期)
〃	物部 伸吾 (二期)

☆松江東高校同窓会「東雲会」

関東支部会役員一覧

支部長	上田 恵子 (二期)
事務局長	熊川 敦子 (二期)

☆松江東高校ホームページ＆メールアドレス

HPアドレス
<http://www.matsuehigashi.ed.jp/>
 *ホームページリニューアルしました。
 Eメール
higashi.school@shimanet.ed.jp

編集後記

東雲会報も今号で第八号を迎えました。本校の卒業生である友人とたまに連絡をとる機会があるので、そのときに、「しのめを読んだよ」「今東高は〇〇らしいね」などという話題になります。意外と皆様が楽しみに会報を読んでくださっていることが感じられ、嬉しく思っています。そんなとき、友人には必ずしのめ色好いのめ原稿を依頼しますが、その返事は必ずしも色好いのめではないのが残念といえば残念です。ぜひ、会員の皆様の近況や母校での思い出などを編集部までお寄せください。今後も、皆様に母校の近況を知っていただき、また情報交換をしていただくために会報の発行を継続していきたいと考えています。

さて、本校は今年度よりさらに五年間、文部科学省から指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール(SHS)事業を延長することになりました。広い視野から科学に対する興味や関心を持ち、高い自己教育力を身に付けられるような生徒が育つよう、様々な教育プログラムを開発し、東高が一丸となつて頑張っているところです。生徒たちの活動は、新聞に載つたり松江市内で研究成果を発表したりと、様々な機会を通じて皆様の目に触れることがあると思います。ぜひ後輩たちの活躍を温かく見守り、ご支援していただきたいと思います。

また、今年度はいよいよ全国総文祭が松江を主会場に開催されます。本校の生徒も様々な場面で活躍してくれると思います。ぜひ、県民会館やプラパホールにお越しいただき、清々しい高校生の姿を応援していただきたいと思います。

最後になりましたが、今後とも後輩たちの更なる飛躍を期待し、また会員の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご活躍を祈念しまして編集後記とさせていただきます。(H)